■後藤逸(女)　　歌人。"今小町"と言われた才女。夫死去後は病身の父ほか一家を支え，最近「いつ女歌集」が発見された。
ごとういつ
黒住教・・・1814＝　　出羽国雄勝郡川連村で，農家後藤与七郎の長女に生まれる。本名イツ。

_幼くして，その絵心と才知ぶりが近所で話題になり，
水野忠成老中1818＝ 4歳：
群書類従完結1819＝ 5歳：本を読み始め，
・・・・・・1820＝ 6歳：手習い師匠に入門させられ，

ｼｰﾎﾞﾙﾄ来日・1823＝ 9歳：
一通り学ぶと，師匠の勧めで，
異国船打払令1825＝11歳：母から裁縫と機織りを学んだ後，家族の願いで，
・・・・・・1826＝12歳：_川連漆器蒔絵師井上武兵衛に入門，
師匠の勧めで，_俳句・囲碁・将棋覚え，歌道に熱中しながら，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝14歳：_一人前の蒔絵師になってしまうが，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ追放・1829＝15歳：_婿養子を迎え，
富籤流行・・1830＝16歳：_一子虎吉を出産するも，まもなく夫と死別，以後，独身を通すとともに，年老いた両親を抱え，虎吉は度々てんかんの発作を起すなど，一家で唯一の働き手となる一方，肝煎らの勧めで久保田や能代に通い，秋田藩士の歌人大山隼人(好古)に和歌の天分を認められて，本格的な指導を受け，市へ野菜売りに行く際にも，「万葉集」「古今集」「新古今集」などを懐中に入れ，作歌にも励むほど努力，
鼠小僧磔・・1832＝18歳：
_噂は久保田藩主佐竹義厚に及び，参勤交代で湯沢を通った藩主から，屋敷に呼ばれ，人々から"今小町"と呼ばれるほどになり，
高島砲術・・1834＝20歳：*義厚の側室松操院に招かれ，江戸藩邸に召し出され，北村季文・松下青海らに入門して，歌道に精進，
大塩平八郎乱1837＝23歳：

天保改革始・1841＝27歳：

阿部正弘首座1845＝31歳：この年，井上武兵衛が当時の話題を絵とともに著した「夜篭雑談噺」に多くのエピソードが書かれる。

・・・・・・1848＝34歳：*父が発病したため帰郷し看病するも死去。以後，田畑の耕作と一家五人の生活を一人で担いながら，久保田城に出入りして，藩士たちに和歌を教える。

国定忠治磔・1850＝36歳：

ペリー来航・1853＝39歳：

松下村塾・・1856＝42歳：_久保田藩主より，孝養を賞して青銅3貫文を賜る。

五ヶ国条約・1858＝44歳：この年，虎吉の妻が死去したため，孫2人も養育しなければならなくなる。
安政の大獄・1859＝45歳：
桜田門外変・1860＝46歳：

明治維新・・1868＝54歳：
戊辰戦争終・1869＝55歳：_川連村肝煎が'逸のそれまでの働きぶりを賞してほしい'旨の上申書を提出し，
初の日刊新聞1870＝56歳：_川連村が岩崎県の管轄となり，知藩事に旧藩主の子佐竹義理が任命され，
廃藩置県・・1871＝57歳：*母を送った年，自宅を訪れた佐竹義理から，家族一同に五合扶持と"愛日慮"の額を与えられ，励まされ，もと昌平黌の儒者芳野金陵は「孝婦伊津伝」を著して逸の徳を称えるが，岩崎県が秋田県に統合されたため扶持が滞り，
明治6年政変 1873＝59歳：_戸長が県議会に'逸に対して扶持の沙汰があったが，統合でそのままになっており，救済してほしい'旨の上申書を出すなどし，

西南戦争・・1877＝63歳：
大久保暗殺・1878＝64歳：

明治14年政変1881＝67歳：*天皇巡幸に際して，宮内卿の和歌の講話に招かれるが，

岩倉具視没・1883＝69歳：_没した。
最近「いつ女歌集」が発見された。

「人づくり風土記(秋田)」，インターネット(akihaku)，